河北仙販「私の新聞オーディション」入選

ふくらく通信

2014年 第1号 5月21日発行
総号数 67 発行人 菅野香織

田束(たつかね)のつつじ色越し青も青

「田束山←」の大文字が歌津の目印。

伊里前川の脇にあり、向かって左が田束山方面、右が伊里前の町。

表示どおりに進み、少々道が分かりにくいが、枝道に入らず道なりに行く。

震災の傷跡を過ぎれば、棚田や緑が光る里山。

やがて、緑いっぱいの中に線を引いたように整備された道の、上り坂に。

しばらく行くと、払川ダムの田束湖が見える。素晴らしい。でも高くて怖い。でも綺麗。

すぐ近くにある枝道が、田束山への登り口。

ツツジに囲まれた細道を行くと、先人が納めた経塚があって山頂はすぐそこ。

一段下に「展望案内図」がある。

そこからの見晴しといったら、何と見事なことか。

田束山から、自然の恵みは川となり里へ、海へ。

自然の廻りを大切にして暮らすことを、ここは教えてくれる。

田束山からの眺め
↓
つつじの紅色の向こうは、若葉茂る岬と海と空の青、青、青

被災地の輝き 歌津(南三陸町)

震災の傷を、美しい里山と温かな人々が和らげる

歌津 伊里前の湾岸
↓
津波の傷跡

田束山はツツジの名所。例年5月末から6月上旬が見頃。(昨年の5/22頃は咲き初めで蕾多し)

シロウオの力賜る伊里前

今の時季、歌津の伊里前川では、ぎざぎざの石積みが目をひく。

「ざわ」と呼ばれる漁の仕掛けだ。

これでシロウオ(素魚)を獲っている。

歌津のシロウオは、ハゼの仲間で、産卵のために遡上するもの。

歌津の「ざわ」→

シロウオは海でもとれるが、伊里前川に遡上したのを「ざわ」で捕まえるのが名物

川でとるシロウオは、少し飴色がかり、ぬめりもある。

朝とったものが福幸商店内のマルアラさんで売られていた。

何と、昼過ぎでもまだ生きている。

ではないか。

仙台まで持ち帰り、台所で思わず叫びながらとび上った。

夕飯にする段になっても、まだ数匹生きていたからびっくりだ。

下ごしらえ：塩をふって ざっと洗う

食べ方：韮と素魚のOPとじ、かき揚げ、シロウオ丼

淡白だが、だしが出て美味しい

伊里前川のシロウオ漁は、4月5月6月と、春から初夏にかけて行われる。

自然の廻りは、恩恵でもある。

調和を守れば、小さくも、生きる強さを見せるシロウオも来て、元気をくれる。

ご意見・ご感想は〒980-8529 仙台市青葉区一番町1-16-5 河北仙販内「ふくらく通信」まで またはブログの「ふくらく通信」へ
(ふくらく通信 で検索すると出ます)